

一五 来りたまへり。一五 これ凡ての人の審判をなし、すべて敬虔ならぬ者の、不敬虔を行ひたる不敬虔の凡ての業と、
 一六 敬虔ならぬ罪人の、主に逆ひて語りたる凡ての甚だしき言とを責め給はんとてなり。一六 彼らは咥くもの、不満を
 ならす者にして、己が慾に隨ひて歩み、口に誇をかたり、利のために人に諂ふなり。
 一七 愛する者よ、汝らは我らの主イエス・キリストの使徒たちの預じめ云ひし言を憶えよ。一八 即ち汝らに曰ら
 一九 く『末の時に嘲る者おこり、己が不敬虔なる慾に隨ひて歩まん』と。一九 彼らは分裂をなし、情慾に屬し、御靈を
 二〇 有たぬ者なり。二〇 されど愛する者よ、なんぢらは己が甚潔き信仰の上に徳を建て、聖靈によりて祈り、二二 神の愛
 三三 のうちに己をまもり、永遠の生命を得るまで我らの主イエス・キリストの憐憫を待て。三三 また彼らの中なる疑ふ
 三三 者をあはれみ、三三 或者を火より取出して救ひ、或者をその肉に汚れたる下衣をも厭ひ、かつ懼れつつ憐め。

一〇 し時に、敢て罵りて審かす、唯『ねがはくは主なんぢを戒め給はんことを』と云へり。一〇 されど此の人々は知ら
 二 ぬことを罵り、無知の獸のごとく、自然に知る所によりて亡ぶるなり。二 禍害なるかな、彼らはカインの道にゆ
 三 き、利のためにバラムの迷に走り、またコラの如き謀反によりて亡びたり。三 彼らは汝らと共に宴席に與り、そ
 の愛餐の暗礁たり、憚らずして自己をやしなふ牧者、風に逐はるる水なき雲、枯れて又かれ、根より抜かれたる
 三 果なき秋の木、三 おのが恥を湧き出す海のあらき波、さまよふ星なり。彼らの爲に暗き闇、とこしへに蓄へ置か
 四 れたり。一四 アダムより七代に當るエノク彼らに就きて預言せり。曰く『視よ、主はその聖なる千萬の衆を率ゐて
 一五 来りたまへり。一五 これ凡ての人の審判をなし、すべて敬虔ならぬ者の、不敬虔を行ひたる不敬虔の凡ての業と、

二二 五を見よ 黙 二二 五・一四 (後後) 二四
 二二 一四 二二 一七
 二二 一六・一三、三 二二 一七
 二二 一三・一八 (来一) 二二 一七
 二二 一四 約壹三・一 二二 一七
 二二 一六 彼後 二二 一七
 二二 一八 二二 一七
 二二 一九 二二 一七
 二二 二〇 二二 一七
 二二 二一 二二 一七
 二二 二二 二二 一七
 二二 二三 二二 一七
 二二 二四 二二 一七
 二二 二五 二二 一七
 二二 二六 二二 一七
 二二 二七 二二 一七
 二二 二八 二二 一七
 二二 二九 二二 一七
 二二 三〇 二二 一七
 二二 三一 二二 一七
 二二 三二 二二 一七
 二二 三三 二二 一七
 二二 三四 二二 一七
 二二 三五 二二 一七
 二二 三六 二二 一七
 二二 三七 二二 一七
 二二 三八 二二 一七
 二二 三九 二二 一七
 二二 四〇 二二 一七
 二二 四一 二二 一七
 二二 四二 二二 一七
 二二 四三 二二 一七
 二二 四四 二二 一七
 二二 四五 二二 一七
 二二 四六 二二 一七
 二二 四七 二二 一七
 二二 四八 二二 一七
 二二 四九 二二 一七
 二二 五〇 二二 一七
 二二 五一 二二 一七
 二二 五二 二二 一七
 二二 五三 二二 一七
 二二 五四 二二 一七
 二二 五五 二二 一七
 二二 五六 二二 一七
 二二 五七 二二 一七
 二二 五八 二二 一七
 二二 五九 二二 一七
 二二 六〇 二二 一七
 二二 六一 二二 一七
 二二 六二 二二 一七
 二二 六三 二二 一七
 二二 六四 二二 一七
 二二 六五 二二 一七
 二二 六六 二二 一七
 二二 六七 二二 一七
 二二 六八 二二 一七
 二二 六九 二二 一七
 二二 七〇 二二 一七
 二二 七一 二二 一七
 二二 七二 二二 一七
 二二 七三 二二 一七
 二二 七四 二二 一七
 二二 七五 二二 一七
 二二 七六 二二 一七
 二二 七七 二二 一七
 二二 七八 二二 一七
 二二 七九 二二 一七
 二二 八〇 二二 一七
 二二 八一 二二 一七
 二二 八二 二二 一七
 二二 八三 二二 一七
 二二 八四 二二 一七
 二二 八五 二二 一七
 二二 八六 二二 一七
 二二 八七 二二 一七
 二二 八八 二二 一七
 二二 八九 二二 一七
 二二 九〇 二二 一七
 二二 九一 二二 一七
 二二 九二 二二 一七
 二二 九三 二二 一七
 二二 九四 二二 一七
 二二 九五 二二 一七
 二二 九六 二二 一七
 二二 九七 二二 一七
 二二 九八 二二 一七
 二二 九九 二二 一七
 二二 一〇〇 二二 一七

二四 願ねがはくは汝なんぢらを守りて躓つまずかしめず、瑕きずなくして榮光えいこうの御前みまへに歡喜よろこびをもて立つたつことを得えしめ給たまふ者もの、二五 即すなはち
 我われらの救主すくひぬしなる唯一ゆゑいつの神かみに、榮光えいこう・稜威みいつ・權力ちから・權威けんゐ、われらの主しゆイエス・キリスト(ホ)に由よりて萬世よろづよの前まへにも今いまも
 萬世よろづよまでも在あらんことを、アアメン(チ)

ユダの書をはり

イ 羅一六・二五を見よ 亦路一・四七を見よ
 ロ 黙一四・五を見よ へ 約五・四四を見よ
 ハ 彼前四・二三 ト 羅一一・三六を見よ
 ニ 哥後四・一四を見よ チ 來一三・八

・二三 異本「争ふ者を言伏せ」さあり。